



Amazon Elastic VMware Serviceへの移行

VMware workloads

NetApp
January 13, 2026

目次

Amazon Elastic VMware Service への移行	1
NetApp Workload Factory で Amazon Elastic VMware Service の割引価格をご確認ください	1
EVS 環境の節約を検討する	1
Amazon EVS のデプロイメントプランを手動で作成する	2
要件	2
手順	2
移行アドバイザーを使用して Amazon EVS のデプロイメント計画を作成する	3
要件	3
手順	3
推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入	5
要件	5
考慮事項	5
手順	5
結果	8

Amazon Elastic VMware Service への移行

NetApp Workload Factory で Amazon Elastic VMware Service の割引価格をご確認ください

VMware ワークロードを Amazon Elastic VMware Service (EVS) に移行することで得られる潜在的なコスト削減を検討します。この計算ツールを使用すると、ストレージとして Amazon FSx for NetApp ONTAP を使用した場合と使用しない場合の Amazon EVS のコストを比較できます。

節約計算ツールによって、最もコスト効率の高いストレージが FSx for ONTAP であると判断された場合は、詳細な評価を作成して、使用前に確認できる移行計画を作成できます。その後、Codebox を使用して Infrastructure-as-Code テンプレートを生成できます。

EVS 環境の節約を検討する

Amazon EVS 環境への計画的な移行で潜在的な節約を検討するには、次の手順に従ってください。



続行する前に、節約計算ツールの下部にある免責事項を確認し、価格見積りの計算方法について詳しく理解してください。

手順

1. 次のいずれかを使用して Workload Factory にログインします。 "コンソールエクスペリエンス"。
2. メニューを選択 次に *VMware* を選択します。
プランニングセンターが表示されます。
3. VMware メニューから、*節約の検討* を選択します。節約計算機が表示されます。
- 環境設定 ペインでは、EVS の展開リージョンを選択し、それに応じて TCO と節約の予測を調整できます。
4. リージョン ドロップダウン リストから、節約額を計算する EVS 展開リージョンを選択します。
5. 必要に応じて次のスライダーを調整し、選択した値に対するリアルタイムの節約計算を確認します。キーボードを使用する場合は、矢印キーを使用して微調整を行うことができます。
 - 必要な物理CPU (数)
 - 必要な物理メモリ (GiB)
 - 必要なVMストレージ (TiB)
6. **EVS** 課金プラン で、現在利用しているプランを選択します。
7. 次のいずれかを実行します。
 - 移行アドバイザーを使用して "展開計画を作成する" Amazon EVS 環境の場合は、*EVS 移行の計画* を選択します。
 - TCO 計算機を閉じるには、[閉じる] を選択します。

Amazon EVS のデプロイメントプランを手動で作成する

VMware プランニング センターにアクセスするには、NetApp Workload Factory にログインします。そこから、ニーズに合わせてカスタマイズされた Amazon EVS のデプロイメントプランまたは移行プランを手動で作成できます。

Amazon Elastic VMware Service で仮想マシンの要件を手動で指定し、カスタマイズされた Amazon FSx for NetApp ONTAP ファイルシステムを外部データストアとして使用できます。

要件

- Workload Factory にアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要です。アクセス権がない場合は、今すぐアカウントを作成してください。説明書をご覧ください ["ここをクリック"](#)。
- Amazon Elastic VMware Service サブスクリプションが必要です。

手順

- 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
 - メニューを選択  次に*VMware*を選択します。
- プランニングセンターが表示されます。
- *EVS プランを手動で作成*を選択します。
 - VM 環境の要件を入力します。

次の VM 移行のパフォーマンス要件と推奨事項に留意してください。

- パフォーマンス上の理由から、VM インベントリには 10TiB 以上のストレージ容量が推奨されます。
- このデプロイメントに指定する必要な IOPS 数に応じて、Amazon Elastic VMware Service データストアには最小スループットが必要です。
- FSx for ONTAP ファイルシステムの構成に応じて、Amazon Elastic VMware Service 環境で最適なパフォーマンスを実現するために、最小限の数の外部データストアが必要になります。



- 準備ができたら、「計画の確認」を選択して移行計画を確認します。
- 計画をレビューします。各セクションを展開すると、プランの詳細が表示されます。

デフォルトでは、Workload Factory は移行計画を計画センターに保存します。ページの上部付近でこのオプションの選択を解除できます。

- オプションで、ページの右上にある プランの管理 を選択し、レポートのダウンロード (.pdf) または VM ストレージ デプロイメントのダウンロード (.csv) を選択して、移行計画を PDF または CSV ファイルとしてエクスポートできます。
- 展開プランをプロビジョニングする準備ができたら、[プロビジョニング] を選択します。

"VMwareワークロードの導入推奨されるFSx for ONTAPファイルシステム"です。

移行アドバイザーを使用して Amazon EVS のデプロイメント計画を作成する

VMware プランニング センターから Amazon EVS 移行アドバイザーを起動して、ニーズに合わせてカスタマイズされた移行プランを作成できます。

仮想マシンを Amazon Elastic VMware Service に移行し、カスタマイズされたAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを外部データストアとして使用するデプロイメントプランを作成できます。移行アドバイザーのオプションは、VM インベントリ データを収集するために使用されるツールによって異なる場合があります。

要件

- Workload Factory にアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要です。アクセス権がない場合は、今すぐアカウントを作成してください。説明書をご覧ください ["ここをクリック"](#)。
- Amazon Elastic VMware Service サブスクリプションが必要です。

手順

- 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
- メニューを選択  次に*VMware*を選択します。
プランニングセンターが表示されます。
- 展開計画の作成に使用する VM インベントリをリストから選択し、その行で 計画の開始 を選択します。
- 表示されるドロップダウン メニューから **EVS** を選択します。
AWS クラウドオンボーディングの準備 ウィザードが表示されます。
- 必要な情報を入力します。

特定

- VM 構成のアップロード セクションで、移行計画の作成に使用しているデータセットに関する情報を確認します。 VM インベントリ サマリー セクションは、VM の数と合計ストレージ容量を反映してインベントリ ファイルから入力されます。
- VM インベントリの考慮事項 セクションで、移行する VM のリストをフィルターするオプションを選択します。
 - リージョン：Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを導入するリージョンを選択します。 最適なパフォーマンスとコスト効率を実現するには、通常、既存のAmazon EC2 SDDCが導入されているリージョンと同じリージョンを使用します。
 - このリージョンのVMの予測パフォーマンスレベルを選択します。 最初は小さいIOPS設定から始めることを推奨します。 ワークロードの移行または導入時にファイルシステムを作成したあとに、プロビジョニングされたSSDのIOPSを増やすことができます。

- 標準から高パフォーマンス：平均I/O速度が20~5000 IOPSのVMの場合。
- 非常に高いパフォーマンス：VMの平均I/O速度が5,000 IOPSを超える場合。
- パフォーマンスが非常に低い：平均I/O速度が20 IOPS未満のVMの場合。

3. ターゲット容量と保護の考慮事項 セクションで、いくつかのストレージ オプションから選択します。

- a. 考慮するVMストレージ：オンボードされた各VM用に作成されたデータストアのサイズを、現在使用されているサイズ（推奨）またはプロビジョニングされたサイズのどちらに基づいて設定するかを選択します。

外部データストアは、Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムボリュームを使用して実装されます。

- b. 平均データ削減比率：3つの一般的なデータ削減比率から選択します。「1:1 - 削減なし」、「1:1.25 - 20%削減」、または「1:1.5 - 33%削減」を選択します。

どちらの比率を選択するかわからない場合は、*[決定を手伝ってください]*を選択します。Data reduction ratio assistant_dialogが表示されます。VMインベントリとストレージ環境に該当する文を選択してください。アシスタントは適切なデータ削減率を推奨します。推奨比率を使用するには、*適用*を選択します。

- c. ヘッドルームパーセンテージ：FSx for ONTAPファイルシステムの容量に追加される容量増加率を入力します。

20%未満の容量を選択すると、保護および長期的なバックアップのためにボリュームSnapshotを作成することはできません。

- d. * VMスナップショット保護*：スナップショットでVMを保護する場合は、このオプションを有効にします。

4. 「* 次へ *」を選択します。

選択

1. *仮想マシンの選択*ページで、AWS 移行に含める VM をリストから選択します。各 VM の電源状態、および VM が存在するデータセンターとクラスターでリストをフィルタリングできます。

VM リストでは、列として表示する VM 情報の種類を選択できます。たとえば、「ピーク読み取り IOPS」を選択すると、各 VM のピーク読み取り IOPS を含む列が表示されます。

2. オプションで、コストまたは回復可能性を考慮して展開を最適化することもできます。

- コスト: Workload Factory は、リストから I/O 密度が低い VM を選択します。これにより、リソース要件が削減されます。
- 回復可能性: Workload Factory は、ローカルにすばやくコピーするのが最も簡単な VM をリストから選択します。これにより、中断が発生した場合でも迅速な回復が可能になります。

3. 「* 次へ *」を選択します。

設計

- **ClassReview** インスタンス ストレージの割り当て ページで、VM 情報、ボリューム分類ルール、ボリュームの割り当て、および展開の一部として移行されるボリュームのリストを確認し、次へ を選択します。

計画の見直し

1. [Review plan (計画の確認)] ページで、移行を計画しているすべての VM の予測される月単位の削減量とコストの見積もりを確認します。

ページの上部には、FSx for ONTAP ファイルシステムと EBS ボリュームの月間削減量が試算されています。各セクションを展開すると、推奨されるファイルシステム構成、予想される削減量の内訳、前提条件、技術的な免責事項の詳細を確認できます。

デフォルトでは、移行計画は計画センターの計画リストに自動的に保存されます。

2. オプションで、ページの右上にある プランの管理 を選択し、レポートのダウンロード (.pdf) または VM ストレージ デプロイメントのダウンロード (.csv) を選択して、移行計画を PDF または CSV ファイルとしてエクスポートできます。
3. 計画を進める準備ができたら、[プロビジョニング] を選択して、推奨される Amazon FSx for NetApp ONTAP ファイルシステムのデプロイを開始します。

"VMware ワークロードの導入推奨される FSx for ONTAP ファイルシステム" です。

推奨される FSx for ONTAP ファイルシステムを導入

推奨される FSx for ONTAP ファイルシステム (場合によっては複数のファイルシステム) が要件を正確に満たしていることを確認したら、Workload Factory を使用して AWS 環境にシステムをデプロイできます。

Workload Factory アカウントに追加したポリシーと権限に応じて、Workload Factory を使用して (読み取り/書き込みモードを使用して) FSx for ONTAP ファイルシステムを完全にデプロイできます。権限が少ない場合 (読み取り専用モード)、または権限がまったくない場合 (基本モード) は、Codebox の CloudFormation テンプレートを使用して、AWS に FSx for ONTAP ファイルシステムを自分でデプロイする必要があります。

要件

- Amazon Elastic VMware Service サブスクリプションが必要です。
- AWS アカウントで FSx for ONTAP ファイルシステムを作成するには、必要な権限が必要です。

考慮事項

- [クイック作成] または [詳細作成] オプションを使用できます。高度な作成には、カスタマイズ可能ないくつかの追加のストレージパラメータが用意されています。 "この2つのオプションの詳細を見る" です。
- 「Amazon Elastic VMware Service の設定」セクションでは、外部データストアに接続するための EVS 仮想化環境を選択できます。これにより、デプロイメントのベスト プラクティス オプションがいくつかのフィールドに自動的に入力されます。必要に応じてこれらのオプションを変更できます。

手順

1. [Review plan] ページの下部にある [Deploy]* を選択すると、[FSx for ONTAP ファイルシステムの作成] ページが表示されます。

FSx for ONTAP ファイルシステムを定義するフィールドのほとんどは、入力した情報に基づいて入力され

ますが、このページで入力する必要があるフィールドがいくつかあります。

2. 「ファイル システムの一般構成」セクションで、次の情報を入力します。
 - a. **AWS 認証情報**: FSx for ONTAP ファイルシステムを直接作成するために必要な権限を Workload Factory に付与する認証情報を選択または追加します。Codebox から CloudFormation コードを選択し、AWS に FSx for ONTAP ファイルシステムを自分でデプロイすることもできます。
 - b. ファイルシステム名: この FSx for ONTAP ファイルシステムに使用する名前を入力します。
 - c. タグ: オプションで、この FSx for ONTAP ファイルシステムを分類するためのタグを追加できます。
3. 「Amazon Elastic VMware Service 設定」セクションの「環境 ID」リストから、データストアが接続される EVS 環境を選択します。

これにより、次のフィールドが自動的に入力されます。

- **VPC**
- アベイラビリティゾーン
- サブネット
- **NFS データストア アクセス** セクションで、**EVS** ホスト管理のみ オプションを選択した場合、**EVS** ホスト管理 (**CIDR**) フィールドが自動的に入力されます。
- データストア マウント オプション セクションで、データストアを EVS クラスターにマウントすることを選択した場合、**EVS** クラスター **VMware vCenter** アドレスと **vSphere** 管理者認証情報シークレット **ARN** フィールドが自動的に入力されます。

4. [Network & security] セクションで、次の情報を入力します。

- a. リージョンと **VPC**: FSx for ONTAP ファイルシステムをデプロイするリージョンと VPC を選択します。
- b. セキュリティグループ (詳細作成のみ): *詳細作成* オプションを使用する場合、FSx for ONTAP VPC のデフォルトのセキュリティグループを選択して、すべてのトラフィックが FSx for ONTAP ファイルシステムにアクセスできるようにします。新しいセキュリティグループを作成することも、既存のセキュリティグループを選択することもできます。

セキュリティ グループ構成を **EVS NFS** データストアに合わせて調整する オプションを有効にすると、Workload Factory は EVS NFS データストアの設定に従ってセキュリティ グループを構成します。

セキュリティグループにインバウンドルールを追加することで、他の AWS サービスからの FSx for ONTAP ファイルシステムへのアクセスを制限できます。これにより、開いているサービスの数が減ります。最小ポートとプロトコルは次のとおりです。

プロトコル	ポート	目的
TCP、 UDP	——	portmapper (NFS要求で使用されるポートをネゴシエートするために使用)
TCP、 UDP	635	nfs mountd (NFSマウントヨウキュウノジュン)
TCP、 UDP	2049	NFSネットワークトラフィック
TCP、 UDP	4045	Network Lock Manager (NLM、 lockd) -ロック要求を処理します。

プロトコル	ポート	目的
TCP、 UDP	4046	Network Status Monitor (NSM、 statd) -ロック管理のためにサーバがリブートされたことをNFSクライアントに通知します。

a. 可用性ゾーン: 可用性ゾーンとサブネットを選択します。

AZ間トラフィックの課金を回避するには、VMware SDDCが導入されている場所と同じアベイラビリティゾーンを選択する必要があります。

b. 暗号化 (詳細作成のみ): 詳細作成 オプションを使用する場合、ドロップダウンから AWS 暗号化キー名を選択できます。

c. **NFS データストア アクセス** (詳細作成のみ): 詳細作成 オプションを使用する場合、すべてのホストがデータストアにアクセスできるかどうか、または EVS 管理ホストのみがデータストアにアクセスできるかどうかを選択できます。

5. [File system details]セクションで、次の情報を入力します。

a. **ONTAP 資格情報**: ONTAP ユーザー名のパスワードを入力します。

b. * Storage VMクレデンシャル* (アドバンスト作成のみ) : Storage VMのパスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。このファイルシステムに固有のパスワードを指定することも、ONTAPクレデンシャルに入力したパスワードと同じパスワードを使用することもできます。

6. 「EVS クラスター接続」セクションで、次の情報を入力します。

a. データストアのマウント オプション: オプションで、データストアを **EVS** クラスターにマウント オプションを有効にして、データストアを Amazon EVS クラスターに自動的に接続します。このオプションを選択すると、Workload Factory は、ONTAP のベスト プラクティスの推奨事項と一致するように VMware ESXi ホスト設定を構成します。ファイルシステムをデプロイする前に、概要 セクションでプランの詳細を確認し、変更された設定を確認できます。

b. **EVS クラスター vSphere** コンソールの詳細: Amazon EVS に接続する VMware vCenter サーバーの IP アドレスまたは FQDN を入力します。

c. **vSphere** 管理者認証情報のシークレット ARN: vSphere 管理者認証情報のシークレット ARN を選択します。これらの資格情報は、データストアをマウントし、推奨される VMware 設定を構成するため使用されます。

このリージョンで Amazon EVS が利用できない場合、またはアカウントに利用可能なシークレット ARN のリストを取得する権限がない場合は、シークレット ARN 値を手動で入力できます。

7. [まとめ]セクションでは、VMware Migration Advisorがお客様の情報に基づいて設計したFSx for ONTAPファイルシステムとデータストアの構成を確認できます。

8. FSx for ONTAPファイルシステムを導入するには、[作成]*を選択します。このプロセスには最大2時間かかることがあります。

オプションとして、Codebox ウィンドウで **CloudFormation** にリダイレクトを選択し、CloudFormation スタックを使用してファイルシステムと推奨される VM 構成を作成できます。

どちらの場合でも、CloudFormation で作成の進行状況を監視できます。

結果

FSx for ONTAPファイルシステムが導入されます。Codebox の AWS CloudFormation テンプレートを使用して、推奨される VM 構成を Amazon Elastic VMware Service 環境にデプロイできるようになりました。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。